

# 日本地衣学会

# No.25

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信.....	85
	森を見て地球を考える カナダ プリティッシュ・コロンビア大学研修記 その3 / 南 佳典.....	85
	会務報告.....	87
	第2回大会定例評議員会議事録 / 木下靖浩.....	87

## 会員通信 From Members

### 森をみて地球を考える

### - カナダ プリティッシュ・コロンビア大学研修記 - その3

フィールドシーズンも終わり、雨降りが続くようになってきたバンクーバーから、久しぶりの研修記をお届けする。実は7月くらいに、研修記その3を寄稿する予定であったのだが、フィールドシーズンをフルに活用してしまい多忙にかまけてしまった次第である。夏の様子をウェブページにアップしたので、ご興味のある方は以下のurlにアクセスして見ていただきたい。

[www.tamagawa.ac.jp/GAKUBU/NOUGAKU/agronomy/biology/minami/minami\\_index.htm](http://www.tamagawa.ac.jp/GAKUBU/NOUGAKU/agronomy/biology/minami/minami_index.htm)

7月に入ると、北米大陸北西部では快晴の日々が続くようになる。日中は非常に暑くなり、30℃を軽く超えることもしばしばである。そうなってくると大気は非常に乾燥し、土壌もからっからになってしまう。そのため、各家庭の芝生や花庭ではスプリンクラーが頻繁に回るようになるわけだが、今年は深刻な水不足なので、一日おきでないとスプリンクラーを使っはいけないというおふれも出た(8月終わりには、1週間に一度だけと

いう事態にまで陥ったようだが)。

そんな乾燥する真夏にあって水不足に悩まされない地域が、バンクーバーの西方、ジョージア海峡対岸に位置するバンクーバー島の西海岸に広がっている。ここでは年間降水量が6000mmを超す、いわゆる“Rain Forest”と呼ばれている森林が広がっている。十分な降水のおかげで樹高が100m近くまで成長する巨木も存在する。Rain Forest というと「熱帯のものでは？」と思われるかもしれないが、北米大陸北西部にも紛れもない“Temperate Rain Forest (温帯降雨林)”が存在するのである。

温帯降雨林は、アラスカ州南部からカリフォルニア州北部までの太平洋沿岸部を中心に広がる太平洋沿岸林の特に海岸付近に成立する森林を指すものである。その中でも、BC州には特に広大な林分が形成されている。森林構造も複雑で(といっても日本や熱帯林に比べれば大したことではないが)、林床植生が他の地域に比べて

豊富になるという特徴も併せ持つ 林床植生で目立つものは、Oval-Leaved Blue Berry (*Vaccinium ovalifolium*)や Red Huckle Berry (*V. parvifolium*)などのベリー類であるが、Coastal Reindeer (*Cladina portentosa*) や Dragon Cladonia (*Clandonia squamosa*) ,Frog Pelt (*Peltigera neopolydactyla*) などの地衣類 ,Step Moss (*Hylocomium splendens*) や Oregon Beaked Moss (*Kindbergia oregana*) , Lanky Moss (*Rhytidiadelphus loreus*) などの蘚苔類も豊富である。

さて、白いクロクマ (Kermoda Bear とか Spirit Bear と呼ばれている) をご存じの方もおられると思うが、大陸の動きと氷河、それら地理的条件から生じる気象条件、そういった環境下で成立する生態系が生み出し

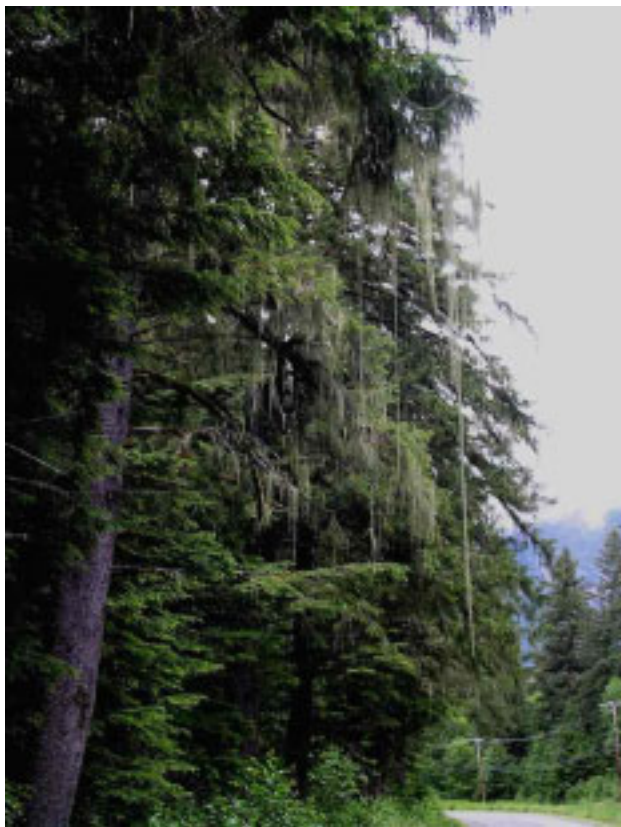


Fig. 1. Sitka Spruce の枝から垂れ下がる Methuselah's Beard (*Usnea longissima*) . 数mの長さまで伸びることがある。

た特殊な生き物で、BC 州沿岸部のある特定の地域にのみ分布している。自然選択論的に普通に考えれば、いわゆるアルピノというものはそうそう生き残れるものではないというのが一般論である。しかし、そこには温帯降雨林という広大な手つかずの大自然が広がっていることが、白いクロクマという特殊な生物の生存を可能にしていると考えられている。昨年初秋、Victoria 大学の Thomas E. Reimchen 教授が河川を遡上するサケが森を育てるという説を唱えて注目され、日本でもテレビ番組で放映されたのは記憶に新しい。大陸から河川を伝って海洋に無機養分が運ばれ海洋生態系が豊富になるということは以前から指摘されていたことであるが(いわゆる、“森が死ぬと海も死ぬ”)、海洋から陸域へと物質を運ぶ還流の担い手もいて、それが河川遡上型

のサケである。さらに、そのサケを補食するクマの存在が川岸よりもっと離れた深い森の中へと栄養を運ぶという事実が確認されたのである。なんとすばらしい、自然の懐の深さ!

太平洋沿岸部は、降水量もさることながら霧の発生率もかなり高い。しかもかなりの濃霧である。夏の朝はだいたい霧が深くかかっており、野外調査に出るのが憂鬱になることしばしばである。しかし、頻繁に発生する霧が樹幹着生植物に対して豊富な水分を提供し、巨木の樹幹や枝には所狭しと地衣類や蘚苔類、シダ類が生育している。中でも目立つのは、Methuselah's Beard (*Usnea longissima*) と呼ばれる懸垂型の地衣類や Cat Tail Moss (*Isoetecium myosuroides*) という糸状の蘚苔類である。特に、Sitka Spruce (*Picea sitchensis*) の森に奥深く入ると、いわゆる Mossy Forest (蘚苔林) の様相を呈し、どこともなく幻想的な景観となっている。おもしろいのは、Methuselah's Beard と Cat Tail Moss は同所的に生育していないということである(絶対とはいえないが)。バンクーバー島西海岸沿岸部では Cat Tail Moss が優占的で、メインランド沿岸部

では Methuselah's Beard が優占的という風に場所によって両者の分布が異なるようである。一口に温帯降雨林といっても、降水量の差異や霧のかかる頻度・程度、成立する森林の構造、林床植生などなど、様々な要因が複合的に植物の分布を規定しているのではないかと考えている。おもしろそうなテーマである。

秋が深まってきて木々の葉の色が変わりつつあるこのごろであるが、借りているアパートメントのバルコニーにはひっきりなしにふわふわした尾を持つリスが訪れてくる。近くに植栽されている Hazelnut の木の実を探

しに来ているのだろうか、大変忙しそうである。このリスは Eastern Squirrel という種類で、人間の移動に伴って西部にまで侵入してきた移入種である。在来種は Douglas Squirrel であるがやや小型なので、Eastern Squirrel に追いやられて深い森の中に生息している。自然が豊富といわれるカナダでも移入種問題は深刻なようである。

南 佳典 (玉川大学農学部)

## 会務報告 Reports of the JSL Activities

### 第 2 回大会定例評議員会議事録

2003 年 8 月 2 日、京都大学農学部において第 2 回大会定例評議員会が会長および評議員 9 名 (2 名は委任状提出) により開催された。

(1) 活動報告事項が庶務幹事によりなされ、下記の内容が承認された。

#### 2002 年度事業報告

##### 【行動目標】

会則・細則・内規 (評議員会運営、講師派遣、名誉会員の整備)  
 主要業務推進体制の確立 (大会・シンポジウム、観察会、学会誌・ニュースレター、HP)  
 各種委員会の発足 (学術情報交流委員会、地域活性化委員会、HP 運営委員会)  
 獲得会員数 2002 年 12 月 31 日 110 名 (一般 76、学生 12、海外 9、団体 3、名誉 10)

##### 【事業計画】

主催大会、シンポジウム、観察会等  
 ・ 設立総会・記念講演 (高知学園短大, 2/17)  
 ・ 日本地衣学会第 1 回大会・シンポジウム (神戸薬大, 7/27-28, 大会委員長: 棚橋孝雄)  
 ・ 植物学会大会関連集会 (京都, 9/21, 世話人: 山本好和・原田浩)  
 ・ 第 1 回観察会 (入笠山, 10/5-6, 世話人: 安斉唯夫, 木下靖浩)  
 印刷物発行等広報活動  
 ・ 学会誌「Lichenology」1 巻発行 (1 号 7 / 下旬, 2 号 11 / 下旬)  
 ・ 日本地衣学会 Newsletter 発行 (No.1 3/30, No.2 5/17, No.3 6/7, No.4 8/8, No.5 8/8, No.6 9/3, No.7 9/16, No.8 11/7, No.9 12/26)  
 ホームページ立ち上げ  
 (<http://www.kulawanka.ne.jp/~yozyamam/jsl/index.html>)

- ・ 掲載項目 - 会則, 入会申込, 大会参加案内・参加申込書, 観察会案内など  
共催・後援行事
- ・ 「地衣類の培養」講習会: 秋田県立大学「市民講座」  
共催 (9 月 / 下旬)
- ・ 「各地区別観察会」: 地衣類観察会共催  
2002 年度会計報告 (別紙参照)

#### 2003 年度事業計画進行状況

##### 【行動目標】

会則・細則・内規 (英文規約, 役員選挙, 大会運営, 総会運営, 編集委員会運営, 観察会運営など) の追加整備  
 各種委員会事業の充実 (学術情報交流委員会, 地域活性化委員会: 青空地衣教室)  
 会員数 年初目標 2003/12/31 129 名 (一般 82, 学生 16, 海外一般 12, 海外学生 2, 団体 3, 名誉 14)  
 現在 (2003/7/31) 133 名 (一般 92, 学生 18, 海外一般 11, 海外学生 0, 団体 3, 名誉 9)

##### 【事業計画】

主催大会、シンポジウム、観察会等  
 ・ 日本地衣学会第 2 回大会・シンポジウム (京都大学農学部, 8/2-3, 委員長: 宮川恒) および青空地衣教室 (京都高雄, 8/4, 世話人: 坂東誠, 高萩敏和)  
 ・ 第 2 回観察会 (秋田県森吉山, 8/30-31, 世話人: 山本好和) およびワークショップ (秋田県大, 9/1-3)  
 ・ 植物学会大会関連集会 (札幌, 9/26, 世話人: 原田浩・岡本達哉) および青空地衣教室 (大雪山愛山溪, 9/24-25, 世話人: 山本好和, 原光二郎)  
 印刷物発行等広報活動 (編集委員会)  
 ・ 学会誌「Lichenology」2 巻発行 (1 号 7 / 下旬, 2 号 11 / 下旬予定)  
 ・ 日本地衣学会 Newsletter 発行 (No.14 3/31, No.15 4/1, No.16 4/20, No.17 5/6, No.18 5/16, No.19 6/5, No.20 6/20, No.21 7/7, 他随

時予定)

ホームページ (HP 運営委員会制作・運営)  
(<http://www.kulawanka.ne.jp/~yozyamam/js/index.html>)

- ・新サーバー (秋田県立大学学世代生物生産システム学講座内) への移行
  - ・地域事業
  - ・青空地衣教室: 地衣類観察会協力
  - 北海道地区 9/24-26(水-金)大雪山愛山溪, 世話人: 山本好和, 原光二郎【植物学会大会関連】
  - 東北地区 5/17(土) 田沢湖, 世話人: 原光二郎, 小峰正史
  - 関東地区 2/2(日) 箱根, 世話人: 木下靖浩, 安斉唯夫. 6/1(日) 箱根, 世話人: 木下靖浩, 安斉唯夫; 台風により中止. 7/20(日) 玉原高原, 世話人: 木下靖浩, 安斉唯夫. 10月予定, 北鎌倉, 世話人: 木下靖浩, 安斉唯夫
  - 関西地区 8/4(月) 京都高雄, 世話人: 坂東誠, 高萩敏和【地衣学会大会関連】
- 2003年度会計中間報告(別紙参照)(会計幹事)

## (2) 提案・審議事項

- ・入会承認; 別紙会員名簿に基づいて新入会員を承認した。
- ・学生会員の資格; 1月1日時点において学生である会員に対しては, 本籍が企業にあるなどに関わらず, 学生会員とすることで合意した。また大会参加費はその年度の会員資格に準じることと定めた。
- ・名誉会員の選出; 庶務幹事から吉岡一郎氏, 生駒義篤氏の名誉会員に推薦することが提示され, 承認された。併せて, 第2回大会への御招待にあたり, 会計より特例として御礼(御車代)を支出することを了承した。
- ・2003年度予算計画案(別紙参照)が会計幹事より提示され, 承認した。

## (3) 報告・協議事項

### Lichenology 日本地衣学会ニュースレター

とも, 投稿先は:

原田 浩 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2  
千葉県立中央博物館, Fax 043-266-2481.  
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

(原田浩: 編集委員長)

### 複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は, 許諾を受けてください。詳細は本誌13号46ページに。

## Notice about photocopying

- ・選挙管理委員長として原光二郎氏, ならびに委員として岩崎郁子氏(いずれも秋田県立大)が会長により指名されたことが報告された。
- ・日本地衣学会第2回観察会(8/30-31, 秋田県森吉山)およびワークショップ(秋田県大, 9/1-3)案が山本世話人から報告された。
- ・日本地衣学会第3回大会が南佳典氏の内諾の元に玉川大で開催を検討中であることの報告が庶務幹事よりなされた。
- ・第3回観察会については, 第1回観察会開催場所である入笠山が候補地であると庶務幹事から提案があったが, 全国に色々なポイントを確認したい, 関東では秩父や玉原高原(群馬)も開催可能ではないか, との意見が出され, さらに検討することとなった。
- ・編集委員会報告として原田編集委員長より, 印刷物発行に関する予算に若干の余裕があることから, Lichenology 掲載論文の上限ページ数の緩和・Lichenology 総ページ数の増加が提案され, 了承された。また, 雑誌としての販売のために価格(会員/非会員)を明示することが山本氏より提案され, 了承された。
- ・学術交流委員会報告が岡本委員長よりなされた。
- ・地域活性化委員会報告が安斉委員長よりなされた。
- ・ホームページ運営委員会報告が原委員長よりなされた。

## (4) その他

- ・評議員会は, 現会長の吉村庸氏の同意のもとに, 吉村氏を次期会長として推薦することと決めた。

(木下靖浩: 評議員会議長)

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see no. 13, p. 46 of this publication.

---

### 日本地衣学会ニュースレター 25号

発行日: 2003年10月31日

編集: 原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄  
発行者・発行所: 日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城の中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

---